

山形中心商店街周辺のオフィス立地に関する調査研究

— 情報産業の立地を例に —

A Research on the Location of the Business office in downtown in Yamagata

— Focused on the Information Industries —

松村 茂

MATSUMURA Shigeru

In Yamagata, we are expecting information industries as next major industry. But we don't know how to grow this industry. They say internet infrastructure, corroboration with university, venture capitals, and creating business ideas are most important things. I think these are very important. But these are not the most important. The most important thing for growing information industry in Yamagata is the lack of things who an entrepreneur is in troubles with.

In this paper I cleared what are the troubles that entrepreneurs might be in by interviews. These are creating business ideas and building relations with their clients. These are said as key points to success in information business and venture business.

The most important thing in order to grow information industry in Yamagata is face to face communication with other entrepreneurs or clients.

1. はじめに (目的)

ITの進展により本格的な情報化時代に入り、産業構造も大きな転換点を迎えている。今後、日本の産業構造は、製造業から金融、情報等へ移り、ソフト化、サービス化がますます進行すると言われている。山形県においても、1990年以降、製造業の事業所は減少し(表1)、逆に情報サービス関連業は増加している(表2)。

本研究は、情報化社会への進展の中で、今後、山形にとり重要な産業と位置づけられる情報産業の立地促進政策が展開されることを前提に、既存に立地する情報産業の経営者にヒアリングを行って、情報産業立地の要因や課題などを調査し、今後の立地促進のための条件を探り、立地のあり方を考察するものである。

2. 情報産業の現状 (渋谷を例に)

1994年にインターネットが商用で利用されるようになり、翌95年にはパソコンが一般家庭に普及するきっかけとなったWindows95が登場した。その後、インターネットは高速化・大容量化、常時接続へと進展し、パソコンもメモリーやハードディスクの大容量化、処理速度の向上、低廉化が進行している。

こうして家庭や事務所での情報環境は年々高度化しながら普及を加速させており、情報産業が起こる環境が徐々に整いつつある。

表1 山形県の製造業事業所数の推移

	1985年	1990年	1995年	1996年	1997年
製造業事業所数	4,843	5,166	4,716	4,550	4,430
年平均増減率	—	1.3%	-1.8%	-3.5%	-2.6%

通商産業省 工業統計表より

表2 山形市の情報産業の立地状況

都市名	情報処理サービス	ソフトウェア業	インターネット関連	情報提供サービス	合計
山形市	45	58	33	37	173
仙台市	310	329	122	148	909
青森市	60	44	35	45	184
秋田市	62	59	36	60	217
盛岡市	70	87	40	79	276
福島市	37	39	19	51	146
新潟市	165	176	61	113	515
渋谷区	363	726	292	183	1,564

NTT職業別電話帳より（2001年9月）

表3 山形市の情報産業の構成状況（各業種の構成割合）（2001年9月）

都市名	情報処理サービス	ソフトウェア業	インターネット関連	情報提供サービス	合計
山形市	26%	34%	19%	21%	100%
仙台市	34%	36%	13%	16%	100%
青森市	33%	24%	19%	24%	100%
秋田市	29%	27%	17%	28%	100%
盛岡市	25%	32%	14%	29%	100%
福島市	25%	27%	13%	35%	100%
新潟市	32%	34%	12%	22%	100%
渋谷区	23%	46%	19%	12%	100%

パソコンがまだワープロや表計算のための機器で、いわゆるパソコン通信が行われていた、80年代後半から90年代前半にソフトウェア開発企業が集積した札幌や仙台等で、今米国のシリコンバレー同様に、情報産業のベンチャー企業が育ち始めている。中でも、東京・渋谷のビットバレーの活動は注目された。

ビットバレーは、東京・渋谷のインターネット関連企業の集積とその活動と言っていいだろう。1999年2月、ネットイヤーの小池聡志、ネットエイジの西川潔など、

渋谷・目黒・港など渋谷周辺に拠点を置くインターネット・ベンチャーの経営者の勉強会、名刺交換会、飲み会などの集まりを母体にした、非営利団体Bit Valley Associationが設立され、広く認知されるようになった。月に1回の割合で開かれる交流の場『ビットスタイル』は徐々に参加者を増やし、2,000人を集めることが度々であった。

ビットバレーは、起業において、メーリングリストなどのインターネット上だけの集まりだけでなく、同種関連産業の集積による経営者や技術者のフェイス・ツー・

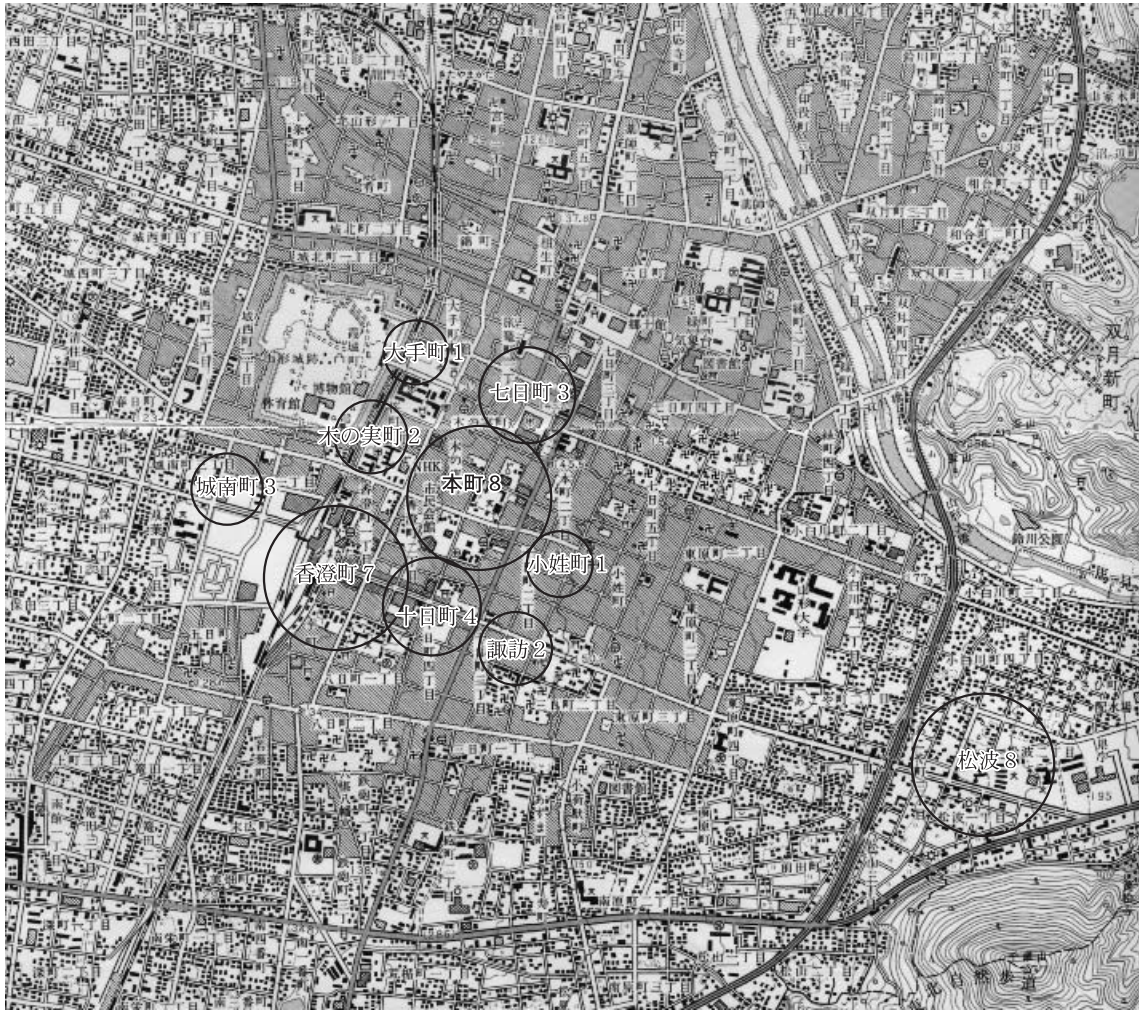


図1 山形駅前周辺の情報産業立地件数

表4 山形駅前周辺の情報産業立地件数 (2001年9月)

町名	香澄町	本町	七日町	桜町	木の実町	十日町	旅籠町	大手町	双葉町	城南町	城西町	城北町	諏訪町	小姓町	松波
事業所数(件)	7	8	3	0	2	4	0	1	3	3	0	0	2	1	8

注) 松波は駅前でない。比較参考のためである。松波の立地は県庁を念頭に置いた土地と思われる。

フェイスの集まりの重要性を改めて示したと言えよう。

3. 山形の情報産業の現状

ここでは、山形の情報産業の立地の状況を見てみよう。表2は東北7県の県庁所在都市の情報産業の集積の度合いを、NTTの職業別電話帳の掲載件数でまとめたもので

ある。(情報処理サービス、ソフトウェア開発、インターネット関連、情報提供サービスはNTTの分類であり、本研究ではこれらの4業種を情報産業として取り扱っている。)山形市は、おおよそ福島市や青森市と同水準と考えて良いであろう。東北では、仙台市が最も多く、次いで新潟市、盛岡市と続く。人口規模、他の産業規模などと比べ、特段、山形市の集積が進んでいないとは言えないが、

仙台、新潟、渋谷に比べれば、明らかに集積は小さい。

山形市に情報産業の企業を集積させたり、あるいは、そのために、起業させるにはどのような条件が必要か、これがこの研究のテーマである。集積と起業はにわとりとたまごの関係にあるように思われるが、以下検討しよう。

図1、表4は、山形駅前周辺の情報産業の立地状況を件数で示したものである。山形市に立地する179件のうち34件が駅前周辺にある。19%にあたる。市内では、松波、あこや町、飯田、桜田、緑町、宮町など、駅前の外周部や県庁、国道13号バイパス周辺に集積が進んでいる。

山形駅前周辺では、本町、香澄町、十日町、七日町、城南町などが多い。ここは従来から山形のオフィスが立地集積する場所である。産業構造の変化から、空きオフィスに入居しているものと思われる。また、この地域は、オフィスばかりでなく、各種のサービス産業や飲食系商業も集積しているため利便性も高く立地するメリットもあるのだろう。

山形市の情報産業の立地条件は、県庁などの有力なクライアントに至近なこと、バイパス沿いなど交通の便がよいこと、飲食などのサービス業の充実していること、あるいは、旧来からのオフィス地域などであると言える。

4. SOHO¹⁾系情報産業へのヒアリング

1990年代後半に山形市内で起業した企業・個人に、営業の方法、営業地域、情報収集の方法などを聞き、立地の選択についてヒアリングした。ヒアリング先、ヒアリングの結果は、表5、表6の通りである。なお、ヒアリングは1999年秋から2000年1月にかけて行った。

ヒアリング先の事業は、Webなどのインターネット関連やCG、映像提供などコンテンツ系とし、情報サービス関連の中でも、今後の発展が期待される業種を選んだ。

営業活動の地域は、山形市内が中心であって、個人的な人脈の範囲とするものがほとんどであった。リアルなネットワークに依存していることがわかった。また、技術の向上や営業活動のための情報収集については、インターネットを使ったものよりも、セミナーやフリーな集まりをあげており、フェイス・ツー・フェイスの集まりに依っている。

さらに、公的な支援についてどのようなものを期待するについて聞いたところ、不要、思い当たらないというこたえが半分ほどあった。その一方で信用保証、資金調達など資金面での何らかの支援を求める声も多かった。

表5 情報産業のSOHOへのヒアリング結果（その1）

企業	事業内容	所在地	開業年	きっかけ	山形立地理由	代表の出身地
A	映像制作・提供	山形市蔵王	1995	山形にないサービス提供	出身	山形
B	インターネットコンサルティングなど	山形市若葉町	1997	大学の卒業	出身	山形
C	DTPなど	山形市蔵王	1995	家族の看病	出身	山形
D	インターネットコンサルティングなど	山形市沼木	1996	独立	出身	山形
E	CG	山形市松栄	1998	サイドビジネスから独立	住環境	山形
F	インターネットコンサルティング	山形市松栄	1999	独立	東京に疲れる	山形
G	CG	山形市松栄	1999	独立	東京では埋没	山形
H	webコンサルティング	山形市下条町	1998	独立	出身	山形
I	webマーケティングサービス	山形市西田	1998	独立	住環境	山形
J	デジタルコンテンツ制作	山形市松栄	1999	独立	前職場	東北他県
K	webデザイン	酒田市	1996	独立	—	—

表5 情報産業のSOHOへのヒアリング結果（その2）

企業	営業方法・営業地域	情報収集	公的支援
A	固定的な取引関係	個人的なつながり、インターネット、フリーな集まり	不要
B	ネット上のコラボレーション	東京進出	不要
C	個人的人脈、飛び込み営業	講習会・セミナー、東北芸術工科大学	資金調達
D	個人的人脈、DM、東京	フリーな集まり	不要
E	山形：個人的人脈 東京：プロダクションとの契約		信用保証
F	中小企業診断士から、DM	フリーな集まり	信用保証
G	個人的人脈		思い当たらない
H	飛び込み営業	東北レベルのオフ会	思い当たらない
I	個人的人脈、ML上の発言		期待
J	個人的人脈	セミナーなど	期待
K	コラボレーション	—	—

5. ヒアリングの考察

ヒアリング先は13件であるが、まだまだ若い企業であるため、従業員も少なく（場合によっては1人のところもある）、売り上げも小さい、決してオフィスを便利なところに求めるような余裕はない。

営業先も個人的な人脈からであり、ほぼ山形市内が中心である。したがって、バスや鉄道、新幹線、航空機などを使って動き回るようなことはなく、オフィスは自家用車で移動できる距離に散らばっている。

このことは、起業に際しては、

- (1) クライアントをインターネットで見つけるようなことよりも、旧来の個人的なつながりで見つけてくることがほとんどであり、地域でのリアルな人脈が大切であることから、広域的な活動を考慮する必要がないこと。
- (2) 山形のような自動車社会では、クライアントの数も多くなかつ分散しているために、車の移動の方が便利であること。
- (3) また、渋谷のビットバレーのような、毎晩飲み会が行われるような起業家の集積もないこと。

などの理由から、オフィスは市内のどこに立地してもあまり問題はないことを示している。

6. 山形市の情報産業集積の方策

情報サービス産業の19%が山形駅周辺に集積しているものの、残りに81%は、市内に分散している。その理由は、今回のSOHO系のヒアリングとあまり変わらないであろう。つまり、クライアントや同業が集積していないこと、鉄道や航空機を利用するような広域的なビジネス展開をしていないことが81%にも該当するだろう。

しかしながら、県庁や大企業の下請け的な仕事をしている場合はかまわないが、今は、民間が創造的に山形の地域（家庭や産業、教育、福祉など全分野）の情報化を推進しなければならない。情報化の対象は、家庭、ボランティア組織、SOHO、金融・サービス産業、小売り・飲食などの個人商店・商店街、地場産業、地元企業、農林業などの1次産業など山形の小規模産業のすべてである。そして、これをSOHOのような若い企業が担っていかなければならないことを考えれば、情報産業が分散していることは好ましいことではないであろう。

なぜなら、現状の企業規模、技術力を維持していくためだけであれば、現在の分散立地でもよいかもしれないが、日進月歩の技術力を吸収し、技術力を高め、企業規模を拡大し、地域に貢献していくためには、集積が必要

である。

集積のメリットは、新しい技術動向と接触し技術力を高めることであり、クライアントや同業のコラボレーションが促進することであり、企画につながる情報やアイデアと接触することだ。

ヒアリングからもわかるように、営業においても、情報収集においても、人脈、フェイス・ツー・フェイスの集まりが必要であることを彼らは認識しているのである。

今後の山形の情報産業を育成していくためには、こうして分散した情報産業を集積させることが特に重要である。霞城セントラルの城南地域から香澄町、十日町、本町、七日町にかけて現在集積している地域は、商業サービスもあり、また山形の文化と歴史に溢れる地域である。この地域に情報産業をこれからも集積させていくことはきわめて重要な施策であると思われる。

さらに、この地域の集積をより強固にするために、山形市内の研究機関等との連携を強める施策も必要になってくる。この山形駅前集積から本学、山大、空港などの交通ネットワークを整備し、この集積のネットワークの機能を拡大していくことが大切である。

山形市内に複数のコアを作り、交通網でネットワーク(情報インフラは当然)することを意識的に行っていく施策が求められている。

7. おわりに

本学では、新研究棟が新築されてから、今まで以上に教員の研究室を訪ねる来客が増えているように感じる。いままで、総合研究センターなどを通じて行われてきた各種の活動が大きく花開こうとしているのかもしれない。

本学が産学官のフェイス・ツー・フェイスの場となり、核となってよりネットワークが拡充し、山形に情報産業がますます興り、活性化することを期待したい。

注)

1) SOHO; Small Office Home Officeの略。起業家のスタートアップの形態や、自宅やワンルームなどの小部屋のオフィスを言う。